

山形県 小学校外国語教育 ハンドブック



グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたるさまざまな場面で必要となることが想定されます。

小学校の第3学年及び第4学年で外国語活動、第5学年及び第6学年で外国語科が始まるに当たり、このハンドブックを活用し、山形県の小学校外国語教育を充実させていきましょう。そして、中学校、高等学校等の外国語教育へバトンをつなぎ、10年後、20年後、さらに国際化が進んだ社会の中で生き生きと活躍する子供たちを育てていきましょう。

山形県教育センター



県教育センター
イメージキャラクター
「せんたん」

本ハンドブックを活用するにあたって

本ハンドブックは、**理論編** と **実践編** の2部構成です。
関連するページを、

理論編へは：  p.○, 実践編へは：  p.○と示しています。

外国語教育に係る資料にも関連付けを図り、

学習指導要領解説へは：  解説p.○,

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックへは：  ガイドp.○と示しています。

【小学校外国語教育に関するギモン!?】

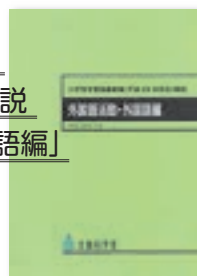
以下のギモン!? で気になる項目があれば、該当ページへGO!

- | | | |
|-----------------------------------|---|--------|
| ① 外国語教育における言語活動って、なに？ |  | p.4 |
| ② 小学校外国語教育の評価はどうするの？ |  | p.4 |
| ③ 学習到達目標って、なに？ |  | p.5 |
| ④ 単元の構想って、どうするの？ |  | p.7 |
| ⑤ ALT等と連携してチーム・ティーチングをするときのポイントは？ |  | p.8 |
| ⑥ 具体的にどんな学習活動ができるかな？ |  | p.9～22 |
| ⑦ どんなクラスルーム・イングリッシュを使おうかな？ |  | 裏表紙 |

【外国語教育に係る資料】

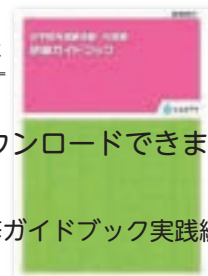
授業や校内研修の充実に向け、以下のような資料も活用してください。

- ① 小学校学習指導要領・
小学校学習指導要領解説
「外国語活動・外国語編」



- ② (A) 小学校外国語活動・外国語
研修ガイドブック

※文部科学省のHPよりダウンロードできます



- (B) 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック実践編
MEXT Channel

教員の学習用動画コンテンツ

- ★Small Talk
- ★発音トレーニング
- ★クラスルーム・イングリッシュ
- ★基本英会話
- ★スピーキング・トレーニング

- ③ MEXT Channel

外国語教育はこう変わる!シリーズ



※10～15分の短編集

(授業ダイジェスト動画等)

※PC, スマートフォン,
タブレット視聴OK



- ⑤ 山形県教育庁義務教育課発行

小学校外国語活動・外国語リーフレット,
中学校外国語リーフレット

※県教育センターのHPよりダウンロード
できます



- ④ 教職員支援機構 (Nits) 校内研修シリーズ



【実践編「学習活動例」の見方】

実践編には、①～⑭までの14の「学習活動例」を載せています。下の表は、その一覧です。このハンドブックでは、領域別の学年ごとの目標を焦点化して単元を構成しています。○印は、「学習活動例」の実践を通して評価対象とする領域を示しています。

学 習 活 動 例 (育成を目指す資質・能力の観点)		評価対象とする領域					ページ ➡
		聞く	読む	話す [やり取り]	話す [発表]	書く	
①外活 外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知る	(知)			○			p.9
②外活 英語の音声やリズム等に慣れ親しむ	(知)	○					p.10
③外活 物語を聞き、自分の考えを伝え合う	(思)	○					p.11
④外活 アルファベットに慣れ親しむ	(知)			○			p.12
⑤外活 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等を理解する	(知)			○			p.13
⑥外活 慣れ親しんだ表現を用いて、自分の日常生活について伝える	(思)				○		p.14
⑦外 文字の形の特徴を捉えて大文字を活字体で書く	(知)					○	p.15
⑧外 聞き取ったことを整理して、第三者ができることについて伝える	(思)				○		p.16
⑨外 文字と音を結び付けて、英語の意味を推測しながら読む	(思)		○				p.17
⑩外 英語と日本語の語順の違いに気付き、語順を意識しながら書く	(思)					○	p.18
⑪外 音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を推測しながら読む	(思)		○				p.19
⑫外 他教科での学びを生かし、伝えたい内容を整理した上で伝える	(思)				○		p.20
⑬外 過去形を含む基本的な表現を用いて、思い出を伝え合う	(知)			○			p.21
⑭外 身近な事柄についての話を聞き、内容を整理した上で伝え合う	(思)	○					p.22

＜「学習活動例」のページの構成＞

【育成を目指す資質・能力】
領域、観点を1つに絞り示しています。

【言語活動】
目指す資質・能力を育成するために効果的な言語活動の一例です。(単元のゴールとなる言語活動以外を想定している場合もあります。)
コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を設定し明記しています。

指導のポイント!
学習活動の進め方や指導の重点等を説明しています。

学習活動例①(外語活動) 外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知る

【育成を目指す資質・能力】 [話すこと(やり取り)] (知) ➡ 解説 p.13, p.21
気持ちを伝える言葉を使う

【言語活動】
身近な友達と挨拶をし、感情や状態を尋ねたり伝えたりします。
(目的) 友達と仲良くする
(場面) 朝の挨拶
(状況) その日、同じクラスの友達と初めて会い、握手を交わす。

S1: Hi, さん. How are you?
S2: I'm happy.
S1: どうして happyなの?
S2: だってね、～

【言語活動に向かう学習活動】
How are you?に対して、自分の感情や状態を表す言葉(happy/sleepy/sad/hungry/tired/great等)を習得します。

指導のポイント!
感情や状態を表す能力カードを使い、意味と結び付けながら言葉と出会えます。その後、感情や状態に当てはめられた単語やジェスチャーを取り上げ、相手に伝えようとしていることの理解を助けていくことに期待が持てます。

【学びの接続】
中学年から英語でのコミュニケーションを体験し、英語で思いの気持ちを伝え合うことはとても楽しいことだと感じました。高学年ではもっと英語を使ったやり取りができるようにしています。

【言語活動のポイント!】
自分の感情や状態を伝え合うためには、その感情や状態に適した言葉を選ぶことが必要です。感情や状態に合った言葉を選び、より分かりやすく伝え合うことにつながります。

【評価規準】 (行動観察より)
感情や状態を尋ねたり、伝えたりしている。

【学びの接続】
T1: 今の自分の感情を表すカードはどれですか?
S1: ですね。 S2: ですね。
T1: Oh, you are hungry. S1: Hungry?
S1: Yes, hungry. S2: Hungry.
T1: Hi, everyone. How are you?
S1: I'm hungry. S2: I'm hungry.
T1: 友達の感情は伝わりましたか?
S1: はい、hungryを聞いて、本意におなかがいっぱいだと感じました。だって、S1さんがしょんぼりして居たからです。

言語活動のポイント!
言語活動のねらいや行う際の留意点を説明しています。

【評価規準】
言語活動を通して、育成を目指す資質・能力を身に付けている児童の姿で設定しています。
なお、【言語活動】の欄の太字の部分は、評価規準を満たす具体的な児童の姿です。

【言語活動に向かう学習活動】
上段の言語活動を行うために必要な学習活動(言語活動や練習)の一例です。

【学びの接続】

中学年の児童()・高学年の児童()・中学生()等が登場し、外国語教育のつながりを話しています。

～学習活動例の実践等に御協力いただいた調査研究協力校～

山形市立南小学校 新庄市立沼田小学校 南陽市立沖郷小学校 酒田市立南平田小学校

新学習指導要領に関わって

平成29年3月告示の学習指導要領において、中学年に外国語活動、高学年に外国語科の導入が示されました。新学習指導要領のポイントを整理して、実践につなげていきましょう。



【学習指導要領改訂の趣旨】

小学校では平成23年度から高学年に外国語活動が導入され、児童の高い学習意欲や外国語教育に対する積極性の向上といった成果が認められています。一方で、音声中心に学んだことが、中学校段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないなど、外国語活動での学びが中学校の外国語教育にうまく生かされていないことが課題として挙げられます。

こうした成果と課題を踏まえ、中学年から「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達に応じて段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加えて、総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることが求められています。 → 解説 p.6, p.62 → ガイド p.12

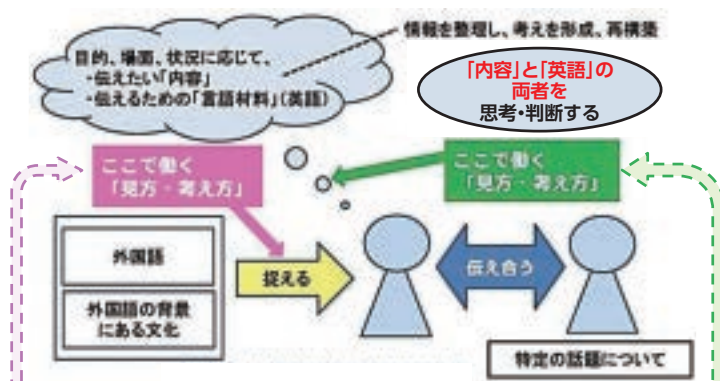
【外国語教育で育成を目指す資質・能力】

外国語活動・小学校外国語科では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による各領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地／基礎となる資質・能力の育成を目指す」ことを目標とし、育成を目指す資質・能力が、3つの柱から明確に設定されています。小学校・中学校・高等学校の学校間の学びの接続に留意しながら指導することで、小学校・中学校・高等学校で一貫した目標を実現できるようにします。各段階での育成を目指す資質・能力とその系統性を正しく理解することが重要です。 → 解説 p.7, p.63 → ガイド p.15

【外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせるとは】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると示されています。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方は、右の図に示してあるように、外国語で他者とコミュニケーションを行う際、次の2つの過程において働くと考えられます。



外国語やその背景にある文化を捉えるときに働く「見方・考え方」

言語材料を捉える際、その言語材料を1対1の対応で日本語訳するのではなく、場面や文脈の中で、相手意識をもって捉えるようにすることが大切です。

そのような捉え方を児童の中に育むことが、「伝え合う」という段階に至る上で必要です。

※「見方・考え方」は一体的です。ここでは便宜的に2つに分けて説明しています。

伝えたい内容を伝える（伝え合う）ときに働く「見方・考え方」

何かを伝え合う際、「何を伝えるか」と「英語でどのように伝えるか」の両者を考えることが必要です。目的や場面、状況などに応じた、より適切な内容を考えることや、既習の言語材料を活用したり伝えたい内容を表現できる形に変換したりして、何をどのように伝えるかを考えることが大切です。

そのような考え方を児童の中に育むことが、「伝え合う」上で重要です。

（「中学校外国語（英語）教育の一層の充実を目指して2」2018年7月（文部科学省 山田誠志調査官）をもとに作成）

【外国語教育における言語活動】

「言語活動」という文言は、新学習指導要領において、外国語活動・小学校外国語科の目標のみならず、中学校・高等学校の外国語科の目標にも記されているものです。

言語活動とは、

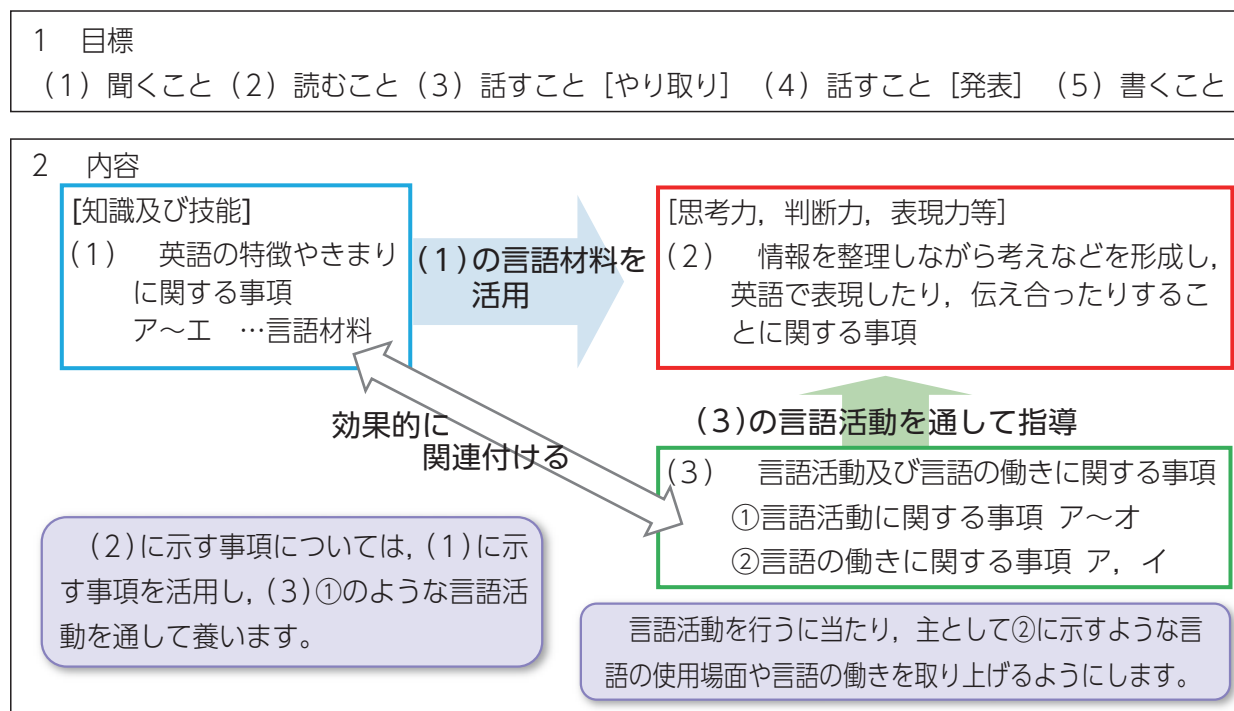
「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」 活動です。

→ ガイド p.23

各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にし、言語活動を設定します。コミュニケーションを図る素地／基礎となる資質・能力はこの言語活動を通して育成を目指します。（本ハンドブックでは、「目的」「場面」「状況」をより明確にするため、3つに分けて明示する試みをしています。）

また、言語活動を行う際は、2 内容〔知識及び技能〕（1）に示す事項／言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行います。

＜新学習指導要領の内容構成の整理（小学校外国語科の「英語」の例）＞



（「新小学校学習指導要領における外国語活動及び、外国語科の指導の在り方の要点」
2018年3月（文部科学省 直山木綿子視学官）をもとに作成）

【小学校における外国語活動・外国語科の評価】

目標に準拠した評価のための観点（観点別評価）は、次のように整理されました。

＜平成20年3月告示 学習指導要領＞

言語や文化に関する気付き
コミュニケーションへの関心・意欲・態度
外国語への慣れ親しみ



＜平成29年3月告示 学習指導要領＞

知識・技能
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度

学習評価については、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要です。観点別の学習状況を記録に残すことについては、毎回の授業ではなく原則として単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要です。

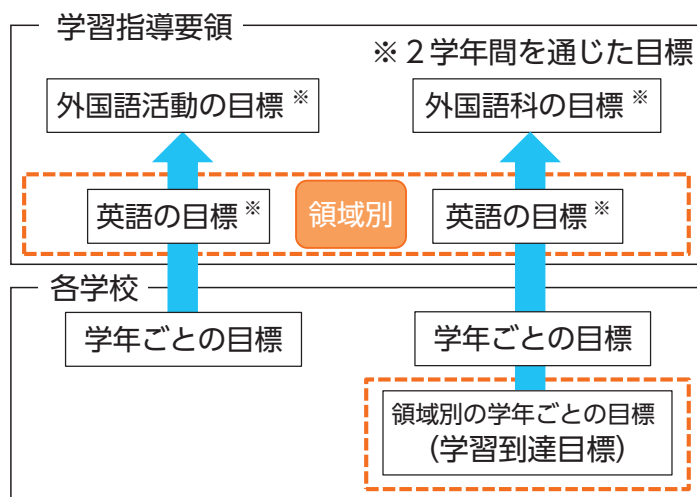
なお、指導要録の記録については、外国語活動では数値による評価は行わず、観点に照らして、顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述することとしています。

学年ごとの目標・学習到達目標の設定について

2 学年間を通じて外国語活動・小学校外国語科のそれぞれの目標の実現を図るため、各学校における児童の発達の段階と実情を踏まえ、学年ごとの目標を適切に定める必要があります。

その際、外国語科においては、領域別の目標が「～することができるようにする」と明確に示されたことにより、領域別の学年ごとの目標を、学習到達目標として設定する必要があります。

→ 解説 p.43, p.123



【学習到達目標の設定】＜第5 学年及び第6 学年 英語の「話すこと[やり取り]」の例＞

学習指導要領の領域別の目標 話すこと[やり取り]	
ア	基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
イ	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
ウ	自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。



各学校において設定した領域別の学年ごとの目標

	学習到達目標（※CAN-DO リスト形式） 話すこと[やり取り]
6 年	① お願いをしたり、それに応じたり断ったりすることができる。 ② 身近な事柄について、その場で質問をしたり答えたりすることができる。
5 年	① 話す相手に合わせて、挨拶をすることができる。 ② 身近な事柄について、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。

第5 学年及び第6 学年の英語では、外国語科の目標を踏まえ、領域別の目標が設定されています。その領域別の目標の実現を目指した指導を通して、外国語科の目標に示されている「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「学びに向かう力、人間性等」を育成する必要があります。この考え方は、外国語活動においても同様です。

→ 解説 p.18, p.75

※CAN-DO リスト形式の学習到達目標…学習到達目標を「児童が英語を使って何ができるようになるか」という観点で領域別に表したものの。

学習到達目標を設定する際には、次の＜山形県が目指す英語教育の目標＞も参考にしてください。

＜山形県が目指す英語教育の目標＞

自分を表現！郷土を発信！「英語を用いたコミュニケーション能力」の育成

＜目指す児童像＞

自分のことや身近で簡単なことについて、慣れ親しんだ英語を使って自分の気持ちや考えを伝え合う

＜目指す教師像＞

児童とともに英語を使いながら「活動」と「教科」のねらいに沿った授業を行うことができる

年間指導計画の作成について

年間指導計画の作成に当たっては、外国語活動や小学校・中学校・高等学校の外国語科における指導との接続に留意した上で、児童の興味・関心や学校等の実態に合わせ立案していくことが大切です。

→ 解説p.41, p.121

→ ガイドp.94

【年間指導計画】<第6学年 年間指導計画の例>

単元で重点化する領域を絞り、年間を通して、領域に偏りがないようバランスを図ります。

月	単元名	時数	単元目標	言語材料例 ※下線部は新出表現 ★新出語句	主な領域 (学習到達目標との関連)					備考
					聞	読	写	説	書	
5	Welcome to Japan. 日本の文化	8	...	Please tell me about Japan. <u>Welcome to Japan.</u> <u>In (summer), we have (a fireworks festival).</u> What [food / games] do you have in Japan? <u>We have [soba / fukuwarai].</u> It's [delicious / fun]. <u>You can enjoy [rakuquo / hanami / tempura].</u> ★culture, castle, fireworks, enjoy, popular, traditional, 日本の行事, 味覚 (sweet, bitter, ...), soft, hard	①	①				社会
6	He is famous. She is great. 人物紹介	8	...	I am (Ken). I [like/play] [the violin/baseball]. <u>I [have / want] a new [recorder/ball].</u> I eat (spaghetti). I study (math). I can (play baseball well). Who is this? [He/She] is [famous/great]. ★famous, old, 身の回りの物 (racket, computer, ...)						
7										
8	My Summer Vacation 夏休みの思い出	8	...	<u>I went to (my grandparents' house).</u> <u>I enjoyed (fishing).</u> <u>I saw (the blue sea).</u> <u>I ate [ice cream].</u> <u>It was [fun/...].</u> ★動詞の過去形, grandparent, vacation, 自然 (beach, ...), zoo, 動作 (hiking, ...)						
9										
				We have/don't have (a park). We can (see many flowers). We can enjoy [fishing/...]. I want a [library/park]. (Yamagata) is nice. ★施設と建物 (aquarium, ...), nature, 動作 (dancing, ...)						国語 総合
				What do you want to watch? I want to watch (wheelchair basketball). I like basketball. <u>Are you good at (basketball)?</u> Yes, I am. /No, I'm not. ★Olympic games, Paralympic games, evening, 国名, スポーツ・競技名 (wheelchair [tennis/marathon], ...)						
	My Best Memory 小学校の思い出	8	...	What's your best memory? <u>My best memory is (sports day).</u> We <u>enjoyed</u> (running). We [<u>went to</u> (Kyoto)]/ <u>ate</u> (Japanese food)/ <u>saw</u> (old temples) / <u>enjoyed</u> (the trip)]. <u>It was</u> (fun/...). ★行事 (sports day, ...)				②	①	卒業 アルバム
1										
	What do you want to be? 将来の夢・職業	8	...	What do you want to be? I like (animals). I want to be a (v...) can (play the piano well). I am good at (p...) piano).		②	①			
2										

肯定文の“We have ~.”を学習した後に、否定文の“We don't have ~.”を扱う等、言語材料については、平易なものから難しいものへ段階を経て取り扱います。

→ p.7

「学年ごとの目標と関連付けられた学習到達目標」と「単元の目標」との関係性を明らかにし、○数字を示します。
○数字は、p.5の第6学年の学習到達目標①、②を表しています。

他教科等で身に付けた資質・能力を活用できるように、他教科等との関連を明らかにします。→ p.20

went to / saw / ate 等の動詞の過去形を含む表現を繰り返し用いることで、より深い理解を促し、表現の運用能力を高めていくようにします。→ p.21

学校行事等との関連を考慮し、指導時期を考えて単元を配列します。

単元構成について

以下を基本にして、単元を構想しましょう。 → 解説p.53, p.132

→ ガイドp.38, p.176

① 単元の目標を設定する

領域別の学年ごとの目標を踏まえ、単元の目標を設定します。その際、年間指導計画において重点化した領域を考慮します。

② 単元のゴールとなる言語活動を設定する

目指す資質・能力を育成することができる言語活動を単元のゴールに設定します。その際、言語材料と言語活動とを効果的に関連付けます。

③ 目指す児童の姿で評価規準を設定する

単元のゴールとなる言語活動において、何をどのように表していればB評価とするのか、資質・能力を身に付けている児童の姿を具体的に想定して評価規準を設定します。

④ 必要な学習過程を組み立てる

ア 単元の見通しをもたせる

単元のゴールとなる言語活動において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を理解させ、見通しをもたせます。

イ 各時間に言語活動を位置付ける

右の例では、単元のゴールに設定した言語活動「My Best Memoryを伝え合ったり書いたりする」に向けて、4～6時間目には、学校行事の一部を題材とした言語活動を配列しています。

それぞれの言語活動を通して、言語材料の習得・活用を繰り返し、単元のゴールに設定した言語活動において活用できるようにします。

ウ 言語活動に必要な語句や表現に出会わせ、練習する活動を仕組む

例えば、5時間目では、修学旅行の思い出を伝え合うために、前時までに扱った語句や表現を中心にしながら、さらに他の語句や表現（新出または既習）に出会わせます。言語活動においてこれらの表現を用いることができるよう、I went to ～. 等の目的語に当たる言葉を入れ替えて話す練習をする活動も仕組みます。

エ 学びを振り返らせる

本単元における自己の変容や意欲の高まり等を言語面と内容面から振り返らせ、今後の生活や次の学びにつなげます。



<「単元の指導計画」例の一部>

- 単元名 小学校の思い出（第6学年）
- 単元の目標 ① 外国の友達に日本の小学校生活を紹介するために、1年間の学校行事の思い出について、楽しかったことや出かけたこと、食事をしたこと等を伝え合ったり、書いたりすることができる。
- 単元の評価規準 ③ (1) 学校行事の名称や My best memory is ～ (学校行事の名称/I went to ～/I enjoyed ～./It was～等の表現を理解し、1年間の学校行事の思い出について、それらの表現を用いて、自分の考えや気持ち等を伝え合う技能を身に付けている。また、終止符(.)について理解し、1年間の学校行事の思い出について、大文字及び小文字を正しく書き分けながら、例文を参考に書いている。【知識・技能】
(2) …【思考・判断・表現】
(3) …【主体的に学習に取り組む態度】
- 単元の指導計画（全8時間）

時間	主な学習活動 (主な言語活動○と練習○)	めざす児童の姿 重点●					
		話す[やり取り]			書く		
		知	思	主	知	思	主
1	・ALTの話を聞き、単元のゴールの活動を確認し、学習計画を立てる。 ○自分の感想 (fun, exciting等) を表す語句の練習をする。 ◎自分たちの学校行事を振り返り、感想を伝え合う。						
2	○英語の文章の書き方を学習する。 ◎例文を参考にして、冬休みの思い出を書く。						
3	○写真と共に、学校行事を表す言葉を学習する。 ◎心に残る学校行事を伝え合う。						
4	○運動会の思い出を伝えるために必要な語句や表現を練習する。 ◎運動会の思い出を伝え合う。 ・運動会の思い出を書く。						
5	○修学旅行の思い出を伝えるために必要な語句や表現を練習する。 ◎修学旅行の思い出を伝え合う。 ・修学旅行の思い出を書く。						
6	○健康フェスティバルの思い出を伝えるために必要な語句や表現を練習する。 ◎健康フェスティバルの思い出を伝え合う。 ・健康フェスティバルの思い出を書く。						
7	○自分が伝えたことを伝えるための語句や表現を練習する。 ◎My Best Memoryを伝え合う。						
8	○過去形の表現を練習する。 ◎例文を参考にして、My Best Memoryを書く。 ・アルバムの内容と書き方について交流する。 ・単元の学習を振り返る。						

1 単位時間の授業づくりについて

1 単位時間の授業を構想する際にも前ページの内容を参考にしてください。さらに以下の点も考慮して授業をつくりましょう。

① 目標と評価の整合性を図る

右の例では、話すこと[やり取り]の「知識及び技能」の目標に対して、主たる言語活動における、資質・能力を身に付けている児童の姿を評価対象とし、評価規準を設定します。

外国語教育では、評価対象が聞いたり話したり読んだり音声中心になることが多いので、記録に残すため、評価場面、評価方法、評価対象を明確にして授業に臨むことが必要です。

② 言語活動と練習

言語活動においては、表現方法だけでなく、伝えたい内容も考えさせることが大切です。児童自身が伝えたい内容を主体的に表現するために、必要な言語材料の練習に取り組めるようにします。

③ 課題設定

児童自身が本時で何を学ぶかを理解し、目標を達成するために必要な活動へ主体的に向かえるよう、「問い」をもとに、質の高い学びにつながる「課題」を設定します。

<「本時の指導計画」の例>

- 1 本時の目標
 - ・ 修学旅行の思い出について、I went to/saw/ate～. 等の過去形を含む表現を用いて、伝え合うことができる。【知識及び技能】
- 2 展開

学習活動	◎評価規準〈方法〉
1 挨拶をする。	
2 Small Talk	
3 本時の課題をつくる。③	
私の修学旅行の思い出は、I enjoyed ～./It was ～.の他にどんな英語を使えば伝えられるかな。	
4 修学旅行でしたことを伝える表現を練習する。	
5 修学旅行の思い出について伝え合う。②	
T1 : Let's talk about your school trip. What did you enjoy ? → p.21	
S1とS2の挨拶 S1 : I enjoyed Senso-ji. I saw a red lantern. It was wonderful. S2 : Oh, the red lantern. It was big. S1 : It was a big red lantern. How about you ? S2 : …… S1とS2の挨拶	
① ◎ 修学旅行について、I [went to/saw/ate/enjoyed] ～./It was～. の表現を用いて、伝え合っている。 ＜行動観察＞	
6 本時の学習をまとめる。	
修学旅行の思い出を伝えるときに、I enjoyed～./It was～. の他に、I went to(行き先)/I saw(見学したもの)/I ate(食べ物)の英語も使えた。	
7 修学旅行の思い出として I[went to/saw/ate]～. の表現から1文程度を書く。	
8 本時の学習をふり返る。	
9 挨拶をする。	

ティーム・ティーチングを効果的に活用するためのポイント

→ ガイドp.108

- ① 単元のゴールとなる言語活動、目指す児童の姿、本時の活動のねらいなどを共有します。
- ② 児童の実情、興味・関心と単元の題材に合った言語活動を行います。
- ③ 児童の学習状況について気付いたことや発見したことを共有し、改善方法を話し合います。

小学校外国語教育における「Small Talk」

→ ガイドP.84

Small Talkは、高学年で行う言語活動の1つです。

[主なねらい]

- ・ 既習語句や表現を繰り返し活用する
- ・ 対話を続けるための基本的な表現の定着を図る

[進め方の例]

- ① 指導者と児童で簡単なやり取り(話題、言い出し方を提供します)
- ② 児童と児童でやり取り(共通の話題のもと、まず、取り組ませてみます)
- ③ 指導(児童が言えなかったことについて、児童が既習表現と結び付けて考えられるようなヒントを出し、児童みんなでどう表現すればよいか考えさせます)
- ④ 相手を替えて、児童と児童でやり取り(改めて、既習表現を活用させます)

「活動(まず、児童に取り組ませてみる)→指導→活動(改めて、児童に取り組ませてみる)」という過程は、「Small Talk」に限らず外国語の授業を構想する上で大切にしていきます。

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(やり取り)]〈知・技〉 ➡ 解説 p.13, p.21

気持ちを伝える言葉を使う

【言語活動】

身近な友達と挨拶をし、感情や状態を尋ねたり答えたりします。

《目的》友達と仲良くなる

《場面》朝の挨拶

《状況》その日、同じクラスの友達と初めて会い、様子を尋ねる

S1 : Hi,  さん. How are you?

 : I'm happy.

S1 : どうして happy なの?

 : だってね、～

言語活動のポイント!

自分の感情や状態を伝え合うためには、その感情や状態に適した言葉を選ぶことが必要です。感情や状態に伴って表された表情やジェスチャーは、言葉を補い、より分かりやすく伝え合うことにつながります。



評価規準 (行動観察より)

感情や状態を尋ねたり、答えたりしている。

【言語活動に向かう学習活動】

How are you?に対して、自分の感情や状態を表す言葉(fine/happy/good/sleepy/sad/hungry/tired/great等)を習得します。

指導のポイント!

感情や状態を表す絵カードを使い、意味と結び付けながら言葉と出会わせます。その際、感情や状態に伴って表された表情やジェスチャーも取り上げ、相手が伝えようとしていることの理解を助けていることに気付かせます。



課題

どんな言葉を使うと自分の気持ちが伝えられるかな。

絵カード



T1: 今の自分の気持ちを表すカードはどれですか?

S1:  です。

S2:  です。



T1: Oh, you are hungry.

S1: Hungry!?

T1: Yes, hungry.

S1: Hungry.

T1: You are hungry,

too.

S2: Hungry.



T1: Hi, everyone. How are you?

S1: I'm hungry.

S2: I'm hungry.

T1: 友達の気持ちは伝わりましたか?

 : S1さんのhungryを聞いて、本当におなかですいているんだと思いました。だって、S1さんがしょんぼりして話していたからです。

【学びの接続】



中学年から英語でのコミュニケーションを体験し、英語で互いの気持ちを伝え合うことはとても楽しいことだなと感じました。高学年ではもっともっと英語を使ったやり取りができるようにしています。

➡ 解説 p.25

【育成を目指す資質・能力】[聞くこと]〈知・技〉 → 解説 p.13, p.19

日本語と英語の音声やリズムの違いに気付く

【言語活動】

友達の好みを予想して好きな色を尋ねたり、自分の好きな色を答えたりします。

《目的》友達の好みを知る

《場面》インタビュー

《状況》クラス替え後、友達と好みを尋ね合う



:(黄色の筆入れや袋を持っているからな)
Do you like yellow ?

S1: Yes, I do. I like yellow.

T1: さん、S1さんの好きな色は、どう聞こえましたか。



:[yellow(●●)]と聞こえました。
「イエロー(●●●●)」とは違いました。

言語活動のポイント!

英語には、日本語にはない強弱やリズム、イントネーションがあります。その違いに気付く体験を通して、言葉の面白さや豊かさに気付かせていくことが大切です。

そして、言語活動においてその気付きを大切にしながら聞いてまねる活動を継続していきます。

英語らしい音声やリズム等をまねることがまだ不十分でも、その気付きを表現できるように教師が聞き返すなどの働きかけも必要です。



評価規準 (行動観察より)

英語の音声やリズム等を聞き分けている。

【言語活動に向かう学習活動】

指導者の発話やデジタル教材の音声聞いて、日本語と英語の音を比べます。

指導のポイント!

児童が英語の音声やリズム等に慣れ親しみ、日本語との違いに気付くことができるように、複数の語句を聞き比べさせます。

ここでは第3学年の初期の学習活動を想定し、簡単な語句を取り上げています。英語特有の音声やリズム等に触れられるよう扱う語句を考慮します。



課題 日本語と英語の音は、何がちがうのかな。



:英語のorangeの音は強いところがあるね。

日本語のオレンジの音は上げ下げがあるね。

S1: 英語のorangeは●●で、日本語のオレンジは●●●●●に聞こえます。他の色の音はどうか?



パープル

Purple

グリーン

Green

ホワイト

White



S2: 英語のwhiteは、なめらかにまとまって聞こえるな。日本語のホワイトは1つ1つの音が分かれているように聞こえるぞ。

S1: White. 英語らしく聞こえた?

【学びの接続】



中学年では、ゆっくり、はっきり、たっぷり聞いて、簡単な言葉から分かるようになりました。高学年でもたっぷり聞いて、文も聞き取ることができるようになっています。

→ 解説 p.19

【育成を目指す資質・能力】[聞くこと]〈思・判・表〉 → 解説 p.14, p.19

話を聞いて、簡単な語句を聞き取る

【言語活動】

絵本(『Who are you?』)の読み聞かせを聞き、登場する動物を見つけます。

《目的》物語を楽しむ

《場面》読み聞かせを聞く

《状況》隠れている動物を聞いて推測する

T1 : I see something white.
I see something black.
I see something long.
Are you a ...?



: White ...
見つけた! これは耳かな?



: Rabbit!

言語活動のポイント!

絵本の読み聞かせを行い、Are you a...? の問いかけに対して、児童が隠れている動物を見つける等して物語を楽しみます。

動物を探す手掛かりとなるのは、色や形、状態等を表す語句です。これらの語句を聞き取らせ、絵と結び付けるようにします。その際、ICT機器等を用いることにより、一人一人の気づきが共有しやすくなります。



評価規準 (行動観察より)

物語を楽しむために、色や形、状態等を表わす語を手掛かりにし、隠れている動物を答えている。

【言語活動に向かう学習活動】

絵本の読み聞かせを聞き、色や形、状態等を表す語句に慣れ親しみます。

指導のポイント!

児童は、色や形、状態等を手掛かりとしながら隠れている動物を探します。児童がsquareに着目した際、実際の図形を使って語句の意味を確かめたり、他の形を表す語句に慣れ親しむ活動を取り入れたりすることもできます。また、scary等の状態を表す語句に着目した際には、表情やジェスチャーで示してその意味を推測させる等、簡単な語句に慣れ親しませながら読み進めるようにします。



課題

どの言葉に気を付けて聞くと隠れている動物が分かるかな。

読み聞かせをしながら

T1 : ... square. Are you a ...?



: Square?

T1 : Square. (ジェスチャーで示す)

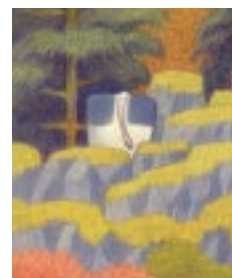


: Square!

T1 : Where is the "square"?

S1 : Square!(指差ししながら) It's a cow.

T1 : Good! This is a square.



T1 : What's this?



(circle)



(triangle)



(diamond)



(star)

【学びの接続】



中学年では、どうすれば相手に伝わるかを考えて、語句や表現を繰り返したり、英語に合わせて表情やジェスチャーを付けたり、実物を見せたりしました。高学年でも、相手や目的等を考えて一生懸命伝え合っています。

→ 解説 p.27

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(やり取り)]〈知・技〉 → 解説 p.13, p.22

相手に配慮しながら，文字を伝え合う

【言語活動】

言葉に含まれるアルファベットの文字を尋ね合い，友達の選んだ言葉を考えて答えます。
《目的》友達が選んだ言葉を当てる
《場面》言葉当てゲーム
《状況》言葉に含まれるアルファベットを友達から聞き出す

S1 : Do you have a "w"?

 : No, I don't. I don't have a "w".

S1 : Do you have a "b"?

 : Yes, I do. I have a "b".

言語活動のポイント!

S1のアルファベットの名称を表す読み方を聞いて，どのアルファベットかが分かり，選んだ言葉にその読み方をするアルファベットが含まれているかを判断して，I have～./ I don't have～. で答えます。

確かに伝わっているか相手の様子を見て，繰り返したり，多様な方法でアルファベットを表したりしながら，やり取りをします。



評価規準 (発表，ワークシートより)

相手に配慮しながら，動作を交える等してアルファベットの文字について答えている。

【言語活動に向かう学習活動】

身の回りにある活字体の文字で表されているものを使い，小文字とその読み方に慣れ親しみます。

指導のポイント!

小文字と大文字の比較を通して，既習の大文字の名称を表す読み方で小文字を読んだり，形の共通点や相違点に気付いたりすることができるようになります。

また，小文字の特徴を捉えて指で表したり，示された文字を読んだりする等，多様な活動を通して，小文字とその読み方に慣れ親しませます。



課題 アルファベットの小文字は，大文字とどう違うのかな。

a	supermarket	SUPERMARKET	z
b	S1 : 小文字のpは，大文字のPと同じ形だね。		y
c	S2 : e, r, aは，E, R, Aの小文字か。		x
d	S3 : s, u, e, m, k, tは，大文字と似ている。		w
e	S1 : pを反対にすると，qになるね。		v
f	形を表わすと		u
g		はpで，qは	t
h		だよ。	s
i	S2 :	は?	r
j		S3 : それは，d。	
k			
l			
m			
n			
o			
p			
q			

【学びの接続】



中学年では，体験しながら大文字と小文字の違いを理解したり，日本語と英語との音声の違いに気付いたりしました。言葉の大切さや豊かさに気付くことは，高学年での聞く力や話す力につながっています。

→ 解説 p.13

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(やり取り)]〈知・技〉 ➡ 解説 p.13, p.21

言語の背景にある文化への理解を深める

【言語活動】

外国の遊びを知り、友達と一緒に遊びます。
 《目的》外国の遊びを楽しみ、異文化を知る
 《場面》遊び『Pin the Tail on the Donkey』
 (活動する場所に合わせて実施)
 《状況》ロバの尻尾の位置を、目隠ししている
 友達に指示する

S1 : Right, right, right, stop.

 : Left, left, stop.

S2 : Up, up, down.

S3 : Here?

S1, , S2 : Please open your eyes.

T1 : ALT の先生の国の遊びを体験して、どう
 でしたか。

 : 外国の遊びだけど、日本の「福笑い」に
 似ているなあと思いました。

言語活動のポイント!



簡単な語句を用いながら、外国や日本の文化等について体験的に理解を深めることが大切です。

『Pin the Tail on the Donkey』は、台紙に描かれたロバの絵に、目隠しをした児童が周りの児童の指示を聞いて、尻尾の切り抜きを合わせるゲームです。

外国の遊びやその中で用いる言語を ALT 等と相談し、効果的な教材を探してみましょう。



評価規準 (発表、ワークシートより)

日本と世界の生活等の共通点や相違点に気付いている。

【言語活動に向かう学習活動】

Go straight. /Turn [right/left].
 等の動作を伴って学習した基本的な表現を用いて、学校を案内します。

指導のポイント!

校舎の平面図等を使って案内する活動を通して、学習した基本的な表現に慣れ親しませていきます。
 示された方向をなぞらせる等して理解を確かめます。



課題 left や right を使うと学校を案内できるかな。

T1 : You are at the entrance. Turn right and go straight.
 Turn right again and go straight. Then you can find
 my favorite room. I like this room.

 : It's the gym. I like the gym, too.

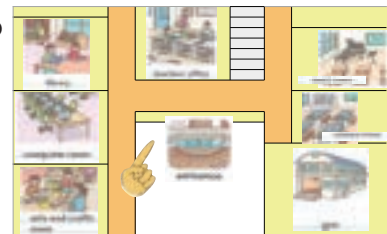
T1 : Nice! What sports do you like?

 : I like basketball.

T1 : Me, too. Next, let's go
 to the library. Let's
 guide your friend.

 : You are at the
 entrance. Turn left.

S1 : OK. Turn left. And ?



【学びの接続】



中学年の外国語活動の「2 内容〔知識及び技能〕(1)ア、イ」の項目に示された「知識及び技能」を体験的に身に付けることが、高学年で英語の特徴やきまりに関する事項を身に付けることにつながります。

➡ 解説 p.24

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(発表)]〈思・判・表〉➡ 解説 p.14, p.23

自分の生活場면을、基本的な表現を用いて話す

【言語活動】

自分の生活の中から相手に伝えたい場面を選んで話します。

《目的》お互いの生活場面を知る

《場面》自己紹介

《状況》自分の生活場면을友達やALTに話す



: I have breakfast.
I like rice and *miso* soup.

言語活動のポイント!

伝えたい生活場面を表す表現を選びます。
2文目には既習の表現を用いて、その場面ですることや好きなこと・もの、状態・気持ち等を加え、相手に伝えたい生活場면을表現します。



評価規準 (行動観察より)

お互いの生活場面を知るために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の生活場면을話している。

【言語活動に向かう学習活動】

1文目に選んだ生活場面で紹介したいことをどう表現するか、既習の表現から考えます。

指導のポイント!

本単元は第4学年の最終Unitを想定しています。外国語活動のまとめとして、これまでに慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて話す場면을意図的に設定しました。

自分の生活場면을紹介する際に用いるであろう語句や表現をあらかじめ把握し、必要に応じて提示したり想起させたりして、それらを使って話せるようにします。

既習の表現は、言語活動において繰り返し用いることで、生きて働く知識及び技能として身に付けさせることが大切です。



課題

どんな表現を使って、相手に知って欲しい生活場면을伝えようかな。

〈これまで使った表現〉絵カードも提示

すること
I run/
walk/play/
sing/watch/
have～. など

好きなこと・もの
I like 食べ物/
スポーツ/
教科. など

状態・気持ち
I'm happy/
tired/
sleepy/
sad. など

S1: 毎朝走っていることを知って欲しいんだけど、どう言えばいいかな? 1文目は I wake up.

「走る」は run かな。だから、2文目は I run.

: へえ、すごいね。何km走るの?

S1: 2 kmだよ。そっか I run 2km. にしよう。

S2: 1文目は I take out the garbage. にしよう。

T1: S2さん感心だね。どんな気持ちになるの?

Tired? Happy?

S2: 家族の役に立つから... I'm happy.

【学びの接続】



中学年では、好き嫌いや欲しいもの等、自分のことを話すことができました。高学年では、伝えたい内容を整理して、相手に分かりやすく話すことができるようにしています。

➡ 解説 p.23

【育成を目指す資質・能力】[書くこと]〈知・技〉 ➡ 解説 p.69, p.81

大文字を活字体で書くことができる

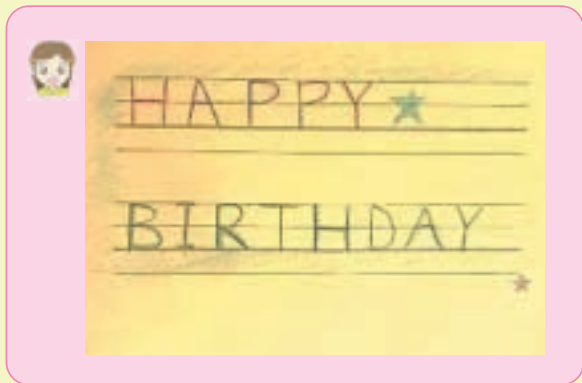
【言語活動】

友達にあてたバースデーカードを書きます。

《目的》友達に祝う気持ちを伝える

《場面》誕生日プレゼントづくり

《状況》バースデーカードを書いて友達に贈る



言語活動のポイント!

バースデーカードを作って贈り、友達に気持ちを伝えるという目的をもって、書き写す活動を行います。

アルファベットの文字を組み合わせると語ができ、語を組み合わせれば、伝えたいことを英語で書くことができることにも気付かせましょう。



評価規準 (行動観察, ワークシートより)

四線に HAPPY BIRTHDAY と、活字体の大文字で正しく書き写している。

【言語活動に向かう学習活動】

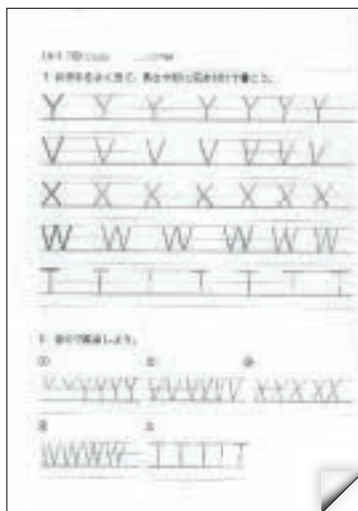
HAPPY BIRTHDAYを書き写すために、単元の帯活動として、アルファベットの大文字(A~Z)を活字体で書く練習を続けます。

指導のポイント!

一度に取り扱う文字の数や種類に配慮します。左右対称の文字、大文字と小文字の形がほぼ同じ文字、曲線を含む文字等、文字の形の特徴を捉えて指導します。単調な繰り返しの学習に終始しないよう、書く目的をもたせます。



課題 どこに気を付けると正しく書けるかな。



 :今日は、直線だけのアルファベットの仲間だ。
 S 1 :文字を真ん中から折ると、左右が同じ形だね。
 S 2 :この5つのアルファベットは、1番上の線と3番目の太い線の間に書くんだよね。
 S 3 :YとXは、上から2番目の線で交わるように書くぞ。
 T 1 :Let's write them.

 :HAPPY BIRTHDAYの A,H,I,Y,T が書けるようになったね。あとは P,B,R,D か。バースデーカードを書くのが楽しみだな。

【学びの接続】



小学校では、語句や表現を書き写したり、例文を参考に自分のこと等について書いたりしました。この活動を踏まえ、中学校では、関心のある事柄や日常的・社会的な話題について、内容を整理してまとまりのある文章を書けるようにしています。 ➡ 解説 p.81

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(発表)]〈思・判・表〉 → 解説 p.71, p.81

第三者のことを、内容を整理して、話すことができる

【言語活動】

インタビューして分かった友達の「できること」を発表します。

《目的》友達のよさを伝える

《場面》他己紹介

《状況》友達の意外な一面を学級の別の友達に話す



: S1 is great.

She can play soccer well.

She can cook curry and rice.

言語活動のポイント!

友達に関心をもち、理解を深めることをねらいとし、三人称単数の主語の中の he/she を用いて他己紹介をします。

can を用いた文について、音声で十分に慣れ親しませ、友達の「できること」を紹介できるようにします。



評価規準 (行動観察より)

友達のよさを伝えるために、その友達ができることについて、聞き取った内容を整理して、他の友達に伝えている。

【言語活動に向かう学習活動】

絵カード等を用いて友達の「できること」「できないこと」を予想した上で、Can you~? を用いて友達にインタビューを行い、話す内容を整理します。

指導のポイント!

友達の意外な一面を紹介するという、目的や場面、状況等に応じた課題をもたせるようにします。そうすることにより、友達に関心を寄せ、予想を立ててインタビューしたり、紹介したい内容を選んだりする際に、判断の拠り所を明確にもてたりするようになります。

友達ができることを認め合える学習集団へと高めましょう。



課題 何を紹介すると、友達の意外な一面が伝わるかな。

できること(予想)



できないこと(予想)



: Can you play the recorder?

S1 : Yes, I can. I like music.

: I see. Can you swim?

S1 : Yes, I can. I can swim fast.

: Oh, I see. Can you cook?

S1 : Yes, I can. I can cook curry and rice.

: Oh, Really! Great! Can you play soccer?

S1 : Yes, I can. I can play soccer well.

: Wonderful !

S1さんがcookもplay soccerもできるなんて、知らなかった。みんなも知らないと思うな。この2つを選んで発表しよう。



【学びの接続】



高学年では、身近で簡単な事柄について、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、内容を整理して自分の考えや気持ち等を伝え合いました。この活動が、中学校での、日常的话题や社会的な話題について情報を捉え、自分の考えを深め、相手に分かりやすく伝えることにつながっています。

→ 解説 p.99

【育成を目指す資質・能力】[読むこと]〈思・判・表〉 → 解説 p.71, p.78

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句の意味が分かる

【言語活動】

道案内を聞いて、地図上の情報を頼りに、宝物が隠されている場所を探します。

《目的》地図を使い、友達の宝物を探す

《場面》宝探しゲーム

《状況》友達の道案内を聞いて、地図を辿る



: Where is your treasure?

S 1 : Go straight and turn left at the first corner. Walk for two blocks and turn right. You can see it on your left.



: In the school?

S 1 : Yes.

言語活動のポイント!

道案内を聞く側の児童は、地図上の施設・建物の名称を読みながら、道を辿ります。途中、どこで曲がったかを尋ねる等しながら、児童が名称を読む機会を数多く設けるようにします。

道案内で使う地図には、前時までに音声で十分に慣れ親しんだ施設・建物の名称を明記します。その際、Go straight./Turn [right /left].等の既習の表現が使える道路や交差点も盛り込むようにします。



評価規準 (行動観察より)

友達の宝物を探すために、地図上の語の文字情報と慣れ親しんできた語や文字の音を結び付け、施設・建物の名称を推測しながら読んでいる。

【言語活動に向かう学習活動】

Jingleで初頭音を意識しながら単元で扱う語句に慣れ親しみます。

指導のポイント!

Jingle等を用い、音声を中心としながら「文字に触れること」を通して文字への認識を高めます。

このような活動を通して、次第に文字を追いながら発音できるようになることが期待できます。帯活動として継続しましょう。



課題 同じ音から始まる言葉はどれかな?



T 1 : Repeat after me.

/p/ /p/ "park"

S S : /p/ /p/ "park"

T 1 : /p/ /p/ "post"

S S : /p/ /p/ "post"

T 1 : "park" "post"

S S : "park" "post"

👧 : "police" も /p/ から始まるね。

T 1 : Nice! /p/ /p/ "police"

S S : /p/ /p/ "police" "police"

【学びの接続】



高学年では、たくさん聞いたり話したりして慣れ親しんだ英語を見たとき、絵なども手掛かりにして読めるようになりました。中学校では、発音と綴りの関係を理解しながら、より多くの英語の語句や表現が読めるようにしています。

→ 解説 p.78

【育成を目指す資質・能力】[書くこと]〈思・判・表〉 ➡ 解説 p.71, p.82

英語の語順を意識しながら、例文を参考に、書くことができる

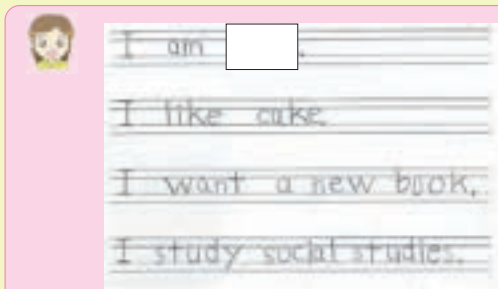
【言語活動】

自分が好きなもの、欲しいもの、よく食べるもの等についての文を書きます。

《目的》自分のことを知ってもらう

《場面》自己紹介

《状況》自分の特長を書いて掲示する



言語活動のポイント!

左の自己紹介文で示した[主語+動詞+目的語]の基本的な表現は、これまでに音声を通して十分に慣れ親しんできています。この活動では、書くことを通して、音声だけでは気付きにくい文の語順や、動詞と適切な目的語の組み合わせを意識させます。



評価規準 (行動観察・ワークシートより)

自分のことを知ってもらうために、like/want/eat/study 等の動詞と適切な目的語を組み合わせ、語順を意識しながら、例文を参考に、自己紹介の文を書いている。

【言語活動に向かう学習活動】

絵カードを並べて作った英語の文を日本語の文と比べ、英語の文の語順[主語+動詞+目的語]に気付きます。

指導のポイント!

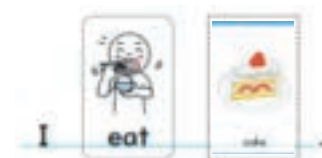
動詞と名詞の二つの絵カードを並べる活動は、音声で十分慣れ親しんできた基本的な表現を可視化し、文を書き写す活動につなげることができます。また、文を構成する語句に着目させ、英語の文の語順を意識しながら表現できるようにします。



課題 英語と日本語では、文の語順はどう違うのかな。

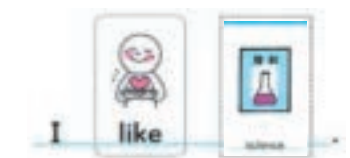
T1: どんな自己紹介の文が作れましたか。

S1:



私はケーキを食べます。

S2:



私は理科が好きです。

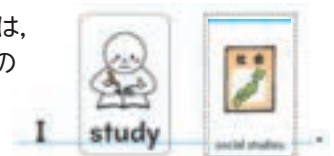
S3: 英語と日本語では、文の語順が違うんだね。

S1: 英語は「だれが」の後に、「どうする」の順番だ。

S2: 英語は「どうする」の後に、「なにを」があります。



: 今見つけた英語の文の語順は、
I study social studies. の
ときも同じだな。



【学びの接続】



高学年では、どのように語を並べると自分の伝えたいことが伝わるかを考えて英語を書きました。中学校では、英語で聞いたり読んだりして得た情報のうち、どの情報を取り上げるのか、どの表現が書く上で活用できるかを考えて事実や自分の考え等を書いています。

➡ 解説 p.99

【育成を目指す資質・能力】〔読むこと〕〈思・判・表〉 → 解説 p.71, p.78

音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を読んで意味が分かる

【言語活動】

日本文化について書かれた文章を読み、内容を理解します。

《目的》日本文化を紹介する

《場面》外国人との交流の準備

《状況》友達の紹介文を読み、伝えたいことを知る

— S1が書いた紹介文 —

Welcome to Japan.
We have *imonikai* in autumn.
It's an outdoor party.
You can enjoy cooking *imoni*.
It's fun.



— S1が書いた紹介文を読んでいる児童 —



: We have *imonikai* in autumn. だから、
「秋の芋煮会」の紹介か。You can enjoy
cooking *imoni*. だから、芋煮作りは楽しい
ということを伝えたいんだね。

言語活動のポイント!

外国人の観光客に日本文化を紹介する文章を友達同士で読み合います。これまでに聞いたり話したりして慣れ親しんできた You can enjoy *hanami*. 等の表現を想起しながら、友達の紹介文を読んでいる児童は You can enjoy cooking *imoni*. と音声化し、その意味を推測します。

その際、書かれた内容を理解するための手掛かりにできるよう、紹介文に写真や絵等の情報も盛り込んでおくようにします。



評価規準 (行動観察より)

日本文化を紹介するために、We have ～. /You can ～. の表現の意味を理解し、書かれていることを推測しながら読んでいる。

【言語活動に向かう学習活動】

We have～./You can～. の表現を使い、日本文化を紹介します。

指導のポイント!

日本文化を紹介する際、活用できる既習表現を想起させたり、必要に応じて新しい表現と出会わせたりしながら、2～3文程度を書くことができるようにします。



課題 日本文化の魅力をどんな言葉で伝えようかな。

S 2 : We have the Hanagasa Festival. だったら、どう?

S 1 : You can dance. は、使えるね。

S 3 : It's exciting. は、どうかな?

S 1 : 使える言葉がいろいろあるね。



: 私は日本の「お茶」を紹介したいな。

Welcome to Japan.

We have *matcha*. T1先生、

How do you say *nigai* in English?

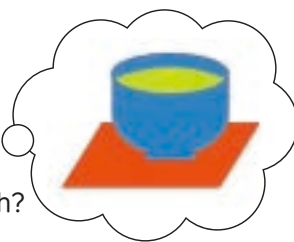


T 1 : お茶の「味」を紹介したいのですね。

Matcha is bitter.



: I see. *Matcha is bitter*.



【学びの接続】



高学年では、中学年から聞いたり話したりして、音声で十分に慣れ親しんだ英語の語句や表現を見たときに、声に出して読み、その意味が分かるようになりました。中学校では、書かれた英語の文章を読んで、日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり大まかな内容を捉えたりすることができるようにしています。

→ 解説 p.78

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(発表)]〈思・判・表〉 → 解説 p.71, p.81

身近で簡単な事柄を、内容を整理して、話すことができる

【言語活動】

まちのよさや、まちに欲しいものを外国人に伝えます。

《目的》お互いの住むまちの様子や、まちへの思いを知る

《場面》外国人との交流

《状況》まちに来たALTに自分のまちのよさや、まちへの思いを話す



: Yamagata is nice.

We have Zao mountain.

We can see big ice monsters.

We don't have a department store.

I like shopping.

I want a department store.

言語活動のポイント!

自分の考えや気持ちだけでなく、その理由となる事実を挙げることで、相手に考えや気持ちがより伝わりやすくなります。

まちの特徴として挙げる施設や建物等は、We [have/don't have]～. /We can～。を用い、自分の考えや気持ちは I like～。/I want～。を用いて、表現するようにします。



評価規準 (行動観察、ワークシート等より)

お互いの住むまちの様子や、まちへの思いを知るために、伝える内容や順番を考え、既習の語句や表現を用いて発表する文を組み立て、伝えている。

【言語活動に向かう学習活動】

これまで書きためてきた文を並べ替え、自分が伝えたいことが伝わるように組み立てます。

指導のポイント!

伝えたいことが伝わるように、文の順番を決めたり、選んだりして整理する活動を行います。その際、国語科で学習した「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える」ことを生かすようにします。



課題

文をどう組み立てると、まちのよさや、まちへの思いや気持ちが伝わるかな。

話す文を決め、順番を考えよう

Yamagata is nice.

We have Zao mountain.

We can enjoy hiking.

We can enjoy hot springs.

We don't have an aquarium.

I like seeing fish.

I want a big aquarium.

蔵王には温泉もあるけど、ハイキングが好きだからWe can enjoy hiking.を伝えたいな。

水族館が欲しいと思うのは、魚が見ることが好きだからなので、I like seeing fish.は前に持っていたほうがいいかな。

【学びの接続】



高学年では、学校生活や地域に関する事実などを発表するだけでなく、自分の考えや気持ち等を整理して話すことができるようになりました。中学生になると、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ち等を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話しています。

→ 解説 p.81

【育成を目指す資質・能力】[話すこと(やり取り)]〈知・技〉 ➡ 解説 p.69, p.79

過去形を含む表現を使うことができる

【言語活動】

外国の友達に紹介する修学旅行について、
思い出や感想を友達と伝え合います。
《目的》お互いの国の小学校生活を知る
《場面》外国の友達との交流の準備
《状況》お互いの修学旅行の思い出を伝え合う

T1 : What did you enjoy ?



I enjoyed Senso-ji.
I saw a red lantern.
It was wonderful.



S1 : Oh, the red lantern. It was big.



Yeah, it was a big red lantern.
I saw a big waraji, too.

言語活動のポイント!

本単元で取り扱う過去形を含む表現を用いることが必然となる思い出を伝え合う言語活動を設定します。

外国の友達に日本の学校生活を紹介するに当たり、修学旅行の思い出をどのような表現で伝えるのか、お互いの感想をやり取りし、紹介する内容や表現を確かめます。



評価規準 (行動観察より)

I [went to/saw/ate/enjoyed] ~./ It was ~. の表現を用いて、伝え合っている。

【言語活動に向かう学習活動】

went to/saw/ate 等の過去形を含む表現から、絵カードに示された思い出を伝えるのに適した表現を選ぶ。

指導のポイント!

上記の【言語活動】は、既習である過去形を含む表現の活用場面として設定しています。

児童が過去形の表現に出会い、習得する際には、右のような学習活動が考えられます。指導者同士のやり取りで新出となる過去形を含む表現を提示し、それらの表現と絵カードの語をつなげて考える活動を通して、どのような思い出を伝えるときに適した表現なのか、用いる場面や状況を理解できるようにします。



T1 : Did you have a good time during summer vacation ?

ALT : Yes, I went to the sea.

I enjoyed swimming.

I ate shaved ice.

It was very nice.

T1 : I see.



課題 思い出はどのような表現で伝えられるかな。

I went to ~. I ate ~. I saw ~. I enjoyed ~.



S1 : mountainは、I went to a mountain. で伝えられるね。



S2 : watermelonは、I ate watermelon. かな。

I ateは、I ate ice cream. のときも使えるね。



S3 : fishingは、I enjoyed fishing. だね。

【学びの接続】



高学年では、過去の出来事や思い出を振り返って表現するために、聞き慣れた表現を用いていました。中学校では「文法事項」として使い方の理解を深めています。 ➡ 解説 p.95

【育成を目指す資質・能力】[聞くこと]〈思・判・表〉➡解説 p.71, p.76

話を聞いて、自分の考えを再構築できる

【言語活動】

中学校で入りたい部活動について聞き合い、発表内容を再構築します。

《目的》お互いの「中学校生活への抱負」を知る
《場面》「中学校生活への抱負」発表会
《状況》友達の入りたい部活動とその理由を聞く

S1 : I want to join the chorus.
I want to be a singer.
I'm good at singing.



: 得意なことを生かしたいということが伝わってくるな。好きだということだけではなく、わたしも I'm good at ~. の表現を使おうかな。



: I want to join the brass band.
I like music.
I'm good at playing the recorder.

言語活動のポイント!

相手の考えと比較したり、新たな考えを取り入れたりしながら、自分の考えを再構築します。

I want to be a ~. や I'm good at ~. を聞き、自身の伝える内容や表現を改めて考え、再度話し、自己の変容を実感させることが大切です。



評価規準 (発表, ワークシートより)

お互いの中学校生活への思いを知るために、友達等の考えと比較し、新たな考えを取り入れたりしながら、自分の考えを整理している。

【言語活動に向かう学習活動】

中学生のスピーチを聞き、発表する内容と表現を考えます。

指導のポイント!

中学生の英語のスピーチを聞かせることで、中学生や中学校生活へ実感を伴った憧れをもたせたり、自分が発表する表現の参考にさせたりすることができます。

中学生にとっても、目的や相手に応じて内容や表現を選択して伝える実践の場となります。



Hello, everyone.(中略) At our school, you can enjoy club activities. We have a dance team, a basketball team, I am in the softball team. We always practice hard, but it's fun. We want to be the Yamagata champions next year! (以下、省略)

課題

入りたい部活動とその理由を、どのように発表しようかな。

S2 : I want to join the dance team. I enjoyed dancing at a festival. It's fun.



: I want to join the brass band. I like music. I like the recorder.

【学びの接続】



高学年では、英語の文を聞いて日常生活と密接に関連した具体的な情報を聞き取れるようになりました。中学校では、目的や場面、状況等から判断して必要な情報が聞き取れることを目指しています。

➡解説 p.77



小中連携を進める上では、小学校・中学校で目指す子供像を互いに理解することが重要です。そのために、互いの授業を参観したり教材を見せ合ったりしましょう。

中学生の英語のスピーチは、中学校では目標「話すこと[発表]イ」を目指した言語活動として行うことができます。小学生に聞かせる際は、相手意識をもたせ視覚情報を伴ったスピーチをさせる等の配慮が必要です。中学校の先生方と話し合い、実施にあたっては、小学校・中学校双方の年間計画に位置付けると効果的です。

活動の始まり

始めましょう。	Let's begin./ Let's get started.		
ゲームをしましょう。	Let's play a game.	準備はいいですか。	Are you ready?

活動中

指示を出す際には文頭や文末にpleaseを加える。

ペアになりましょう。	Make pairs.	向かい合いましょう。	Face each other.
5人のグループをつくりましょう。	Make groups of five.		
4列になって。	Make four lines.	ここに並びましょう。	Line up here.
円になりましょう。	Make a circle.	相手を代えましょう。	Change your partner.
終わりです。	Time's up.	やめましょう。	Let's stop now.
質問はありますか。	Any questions?	やりたい人はいますか。	Any volunteers?

児童への指示

指示を出す際には文頭や文末にpleaseを加える。

[私/黒板/スクリーン/これ]を見ましょう。	Look at [me / the blackboard / the screen / this].		
一緒に言いましょう。	Let's say it together.	私の話を聞いてください。	Listen to me.
[私/〇〇先生]の後について繰り返しましょう。	Repeat after [me/〇〇-sensei].		
手を挙げて下さい。	Raise your hands.	手を下ろしてください。	Put your hands down.
話をやめましょう。	Stop talking.	もう一度言ってください。	Can you say that again?
こちらに来てください。	Come here.	席に戻ってください。	Go back to your seat.
鉛筆を置きましょう。	Put your pencil down.	片付けましょう。	Put your things away.

ほめる/励ます

よくできました。	Good! / Great! / Good job! / Well done!		
素晴らしい。/いいね。	Wonderful! / Excellent! / Fantastic! / Perfect! / Nice!		
正解です。	That's right.	おいしい!	Close! / Almost!
おめでとう。	Congratulations.	君ならできるよ!	You can do it!
(彼/彼女)に拍手しましょう。	Give [him/her] a big hand.		
あきらめないで。	Don't give up.	恥ずかしがらないで。	Don't be shy.

発表を促す

それについて考えましょう。	Think about it.	君の考えを伝えよう。	Let's share your idea.
もう一度[やってみましょう/言いましょう]。	Try again.	/ Once more. / One more time. / Say it again.	

やり取りを促す

どうしてですか。	Why?	もっと聞かせて。	Please tell me more.
どうしてそうではないのですか。	Why not?	私もそう思います。	I think so, too.
私はそう思いません。	I don't think so.	[彼/彼女]は何と言いましたか。	What did [he/she] say?
[彼/彼女]の話を聞きましょう。	Let's listen to [him/her].		

振り返り

振り返りカードを取り出してください。	Take out your [reflection sheet / furikaeri card].		
今日は何を勉強しましたか。	What did you study today?		
今日の授業は楽しかったですか。	Did you enjoy today's class?		

活動の終わり

今日はこれで終わります。	That's all for today.		
--------------	-----------------------	--	--

【監修協力】

国際教養大学 准教授 町田智久 氏

文部科学省初等中等教育局教育課程課情報教育・外国語教育課 教科調査官 山田誠志 氏

県教育センターHPから本ハンドブックと研究報告書を閲覧することができます。

<http://www.yamagata-c.ed.jp/>

令和2年3月発行 ●企画・発行／山形県教育センター

TEL:023-654-2155 FAX:023-654-2159

